



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント・
掲示板・編集後記・特集号案内・
目次・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント・掲示板・編集後記・特集号案内・目次・裏表紙ほか. 物性研究 1968, 11(2): 156-166

ISSUE DATE:

1968-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/86782>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和43年11月20日発行（毎月1回20日発行）
物 性 研 究 第11巻 第2号

vol. 11 no. 2

物性研究

1968 | 11

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、**o** と **a** と **0** (ゼロ)、**u** と **n** と **rr**、**c** と **e**、**l** (エル) と **1** (イチ)、**x** と **×** (カケル)、**u** と **v** 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (**a p** + **b**) **x** + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがあります
すから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、**o** と **a** と **0** (ゼロ)、**u** と **n** と **rr**、**c** と **e**、**l** (エル) と **1** (イチ)、**x** と **×** (カケル)、**u** と **v** 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (**a p** + **b**) **x** + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがあります
すから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

投稿者各位へお願い

— 長文の論文の投稿について —

最近、投稿論文数の増加とともに、特に長文の論文の投稿が目立ってまいりました。現在の財政状況と出版能力のもとでは一号あたりの頁数にも自から限度がありますので、頁数の多い論文の掲載によって同じ号に載せられる他の論文の数が限られる結果となり、それが全般的な掲載の遅れを引き起す原因ともなっております。

従って、今後投稿される際には、内容と表現のバランス、簡潔適切な表現等々に一段のご配慮をいただくとともに、当分の間、一論文の長さを標準的原稿で原則として50枚以内（図は別）に制限していただくことにいたしました。（勿論、論文の様式やタイプの打ち方による多少の差異は考慮いたします。

但し、止むを得ず上記の制限を超える原稿については、著者の同意を得た上で、（1）内容によっては Supplement にまわすとか、（2）原稿を途中から切断して次号以下にわたって連載するという方法もあります。しかしできるだけ後者の場合を避けたいと編集部は考えております。

以上述べましたことは、投稿者各位にご迷惑と思われる措置かとも危惧いたしますが、Progress の現状をご諒察のうえよろしくご協力下さるようお願いいたします。

1968年9月30日

Progress 編集部

東京大学教養学部物理教室助手公募

下記により助手を公募いたします。適任者の推薦，希望者の応募をお願い致します。

- | | |
|--------------|--|
| 1. 分 野 と 人 員 | 物性理論の助手1名 |
| 2. 資 格 | 1969年3月末において大学院修士課程修了
見込みまたはそれ以上 |
| 3. 提 出 書 類 | 履歴書，業績リスト，主要論文の別刷，推薦書
(他薦の場合) |
| 4. 着 任 時 期 | 1969年 4月1日 |
| 5. 〃 切 | 1968年12月末日 |
| 6. あ て 先 | 東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学教養学部物理学教室
主任 金 沢 秀 夫 |

九州大学理学部物理学教室
助手（物性理論）公募

下記により助手1名公募いたします。希望者の御応募，適任者の御推薦をお願い致します。

- | | |
|------------|--|
| 1. 研 究 分 野 | 物 性 理 論 |
| 2. 公 募 締 切 | 昭和44年1月15日 |
| 3. 提 出 書 類 | 履歴書，もしあれば論文リスト（和文・欧文，
できれば別刷をそえて），その他に
a 御応募の場合：研究歴と研究上の抱負
b 御推薦の場合：推薦書 |
| 4. そ の 他 | a 発令はおそくとも昭和44年4月1日 |

- b 物性理論関係には、森肇教授，川崎恭治，
都築俊夫各助教授，吉田健，岡本寿夫各助
手が在職中である。今回の助手は都築助教
授とグループになって研究・教育に携わる
予定であるが，必ずしもこだわらない。

5. 書類の送り先 812 福岡市箱崎

九州大学理学部物理学教室

主任 磯 矢 彰

(助手応募又は推薦と朱書)

お 知 ら せ

物性研究の Vol.1 から数回にわたって講義ノートとして掲載されました
“二時間グリーン函数の理論とその応用”(松原武生)の別刷が相当部数出
て参りましたので，希望者の方にお分けしたいと思います。希望者の方は，
下記にお知らせ下さい。

京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部物理学第一教室

松 原 研 究 室

尚，整理の都合上，出来ましたら一部につき 300 円（郵便切手で）を同封
して下さい。

ニ ュ ー ス

人のうごき

- ◎ 川崎恭治助教授（九大・理・物理）は8月10日～8月25日迄 Canada の Summer school に講師として出張

Summer school and Seminar on Critical Phenomena
Banff School of Fine Arts and Center for Continuing
Education Banff, Alberta, CANADA

- ◎ 9月17日 { Prof. L.P.Kadanoff (イリノイ大)
Dr. Stanley
Prof. 藤田重治 (ニューヨーク州立大)

- ◎ 9月24日 Prof. P.Mazur (ライデン大)

九大・理・物理を訪問、夫々下記の講演が行なわれた。

L.P.Kadanoff: Study of Critical Phenomena by Scaling Law
S.Fujita: 輸送現象の理論

P.Mazur: Remarks on an Exact Solvable Model for Spin-Spin Relaxation

- ◎ Dr. P.Dean と Dr. R.J.Rubin が9月30日～10月3日北大に滞在、Dr. Dean は物理学教室において “Vibration of Amorphous Substances” と題する講演を行ったほか、低温科学研究所においても同様の講演を行った。Dr. Rubin は物理学教室において “Random Walk Theory in Statistical Physics”, 物性理論研究室において無秩序系内の波の伝播についての講演を行った。また、これらの講演に関する質疑応答及びその他の問題に関する討論が活潑に行われた。

- ◎ 中山正敏氏（東大教養物理）

10月16日付で、九州大学教養部助教授に。

久保研コロキウム

9月19日 論文紹介 田村良雄 (M1)

Superconductivity, Sus ceptibility, and Specifio
Heat in the Noble Transition Metals and Alloys

I. Experimental Results (Phys. Rev. 165('68), 533)

II. Comparison With Theory (Phys. Rev. 165('68),
545 by M.A.Jensen d K.Andres)

9月24日 論文紹介 五十嵐儀孝

The Theory of Condensation and the Critical
Point (Physics 3, no. 5) by M.E.Fisher

10月1日 海老沢丕道 (D1), 福山秀敏 (D2), 和田 靖

Theory of Hall Coefficient

10月8日 大畠永生 (D3)

Electrical Conduction in Narrow Bands

久保研からの苦情:

他の研究室のコロキウムもどしどし載せて下さい。

私達は、京大、阪大、名大、九大、東北大等各大学の物性理論(実験も)
研究室で、今どういう話題が興味を中心になっているか知りたいと思います。

プレプリント案内

[日大. 理工]

- Introduction to the General Theory of Thermodynamic Fluctuations (R.A.Ferrell)
- Nonequilibrium Thermodynamics of Superconducting Alloys in High Magnetic Fields. (W.Weller)
- Method of Producing Superlow Temperatures by Deluting He^3 in He^4 . (B.S.Neganov)
- Stability Conditions for an Anharmonic Crystal. (N.M.Plakida)
- On the Change of the Force Constants of the Impurity Atoms. (K.Parlinski)
- An Exact Turbulence Theory for the Burgers Equation. (Pitter Graff)
- Drift Instabilities of Turbulent Plasma in Strong Magnetic Field. (E.N.Krivorutsky, V.G.Makhan'kov, V.N.Tsyтовich)
- Non — Linear Generation of the Plasma Waves by the Transverse Wave Beam. V. (V.G.Makhan'kov and V.N.Tsyтовich)

[名大理. 物理. S 研]

- Electron Scattering by Iron in Copper — Gold Base Alloys. (W.M.Star, F.B.Basters and C.van Baarle)
- Spin Compensation in Palladium — Chromium Alloys. (W.M.Star, B.M.Boerstael and J.E.van Dam)

- Equivalence Between S — Matrix and Green's Function
Approach to the Kondo Problem (Johannes Zittartz)
- Magnetic Susceptibility of Dilute Magnetic Alloys.
(Johannes Zittartz)
- Dynamics of Localized Moments in Metals; II. Second
Order Exchange Effects. (R. Orbach and H. J.
Spencer)
- Low Temperature Properties of Metal: Dilute — Magnetic
— Ion System. (K. K. Murata and J. W. Wilkins)
- Phase Transition Between Partially Condensed Homogen-
eous and Periodic Systems. (A. Coniglio,
M. Marinaro and B. Preziosi)
- Generalization of the "Effective — Mass" Equation.
(G. Iadonisi and B. Preziosi)

[久保研]

- Single Site Approximations in the Electronic Theory
of Simple Binary Alloys. (B. Velicky, S. Kirkpa-
trick, and H. Ehrenreich)
- Quantum Theory of Light Propagation in a Fluctuating
Laser — Active Medium. (R. Graham and H. Haken)
- Anomalous Electrical Resistivity in Antiferromagnetic
Metals near the Neel Point. (Yukio Suezaki and
Hazime Mori)
- Phonon Frequency and Electron — Phonon Interaction in
Metals in a Strong Magnetic Field. (Tatsuzo
Nagai and Hazime Mori)
- Exciton — Phonon Bound State: A New Quasiparticle.
(Y. Toyozawa and J. Hermanson)

プレプリント案内

- Phase separation in Isotopic Fermi - Bose Mixtures.
(J.M.J. van Leeuwen and E.G.D. Cohen)
- Pathological science by I. Langmuir. (R.N. Hall)
- Self - Consistent Charge Densities, Potentials, and
Work Functions at Metallic Interfaces.
(A.J. Bennett and C.B. Duke)
- Magnetic Equation of State for Nickel near its Curie
Point. (J.S. Kouvel and J.B. Comly)
- A New Method for Linearizing Many Body Equations of
Motion in Statistical Mechanics. (L.M. Roth)
- Magnetism of Induced Moment Systems. (B.R. Cooper)
- Superconductivity of Small Tin Particles Measured by
Tunneling. (I. Giaever and H.R. Zeller)
- Photosensitive Tunneling and Superconductivity.
(I. Giaever)
- Non - Equilibrium States in Large Systems;
1. Statistical Mechanics of Local Equilibrium
2. Supercurrents in a Condensed Boson Gas.
(David Bergmann)
- Quantum Transport Theory in Strong Magnetic Fields.
(H.F. Budd)
- The Ising Model with Second Neighbor Interaction. I
Some Exact Results and an Approximate Solution.
(F.Y. Wu, Chungpeng Fan)
- Anomalous Resistance and Magnetoresistance in Two
Dimensional Transport in InAs. (S. Kawaji and
Y. Kawaguchi)
- Transport Theory in Strong Magnetic Fields.
(H.F. Budd)

• Singularities in the X-Ray Absorption and Emission
of Metals

II. Self-consistent Treatment of Divergences
(P. Nozieres, J. Gavoret and B. Roulet)

• Singularities in the X-Ray Absorption and Emission
of Metals

III. One Body Theory.

(P. Nozieres and C. T. de Dominicis)

• Effect of Pressure on the Neel Temperature of Rare
Earth Intermetallic Compounds. (K. Sekizawa,
Hisashi Sekizawa and C. T. Tomizuka)

• Asymptotic Behavior of Toeplitz Matrices and Determinants.
(R. E. Hartwig and M. E. Fisher)

編 集 後 記

基研創立15周年記念シンポジウム事業の一つとして、「基研要覧」が刊行された。その準備の一つとして、物性研究の前身である物性論研究の歴史を調べる機会を持った。漸く秋立ち始めた或夏の午後、書庫の一隅より昭和18年創刊の物性論研究を見出した。現在、日本の物性理論の指導的立場に立って居られる諸先生方が、卒業後数年を経ずして投稿された論文は、通常の論文とは又別の意味で興味があった。物性論研究は戦争中の難事にあって、その刊行が一時中断されたが、戦後間もなく復刊され、日本の物性論の進歩に著しい貢献をしたことは何人も否定出来ないであろう。

さて、物性研究は終刊となった物性論研究よりも、より自由な物性物理研究者のための雑誌として再出発した。投稿される論文の数も最近少し増大したようである。物理学研究者に対する色々な環境も物性論研究が愛読されていた時代と比較すると、著しく変ったように思われる。最近の物性研究は、物性基礎論グループの同人雑誌的傾向がなくもない。物性研究の存在意義を十分生かすには、矢張り通常の学術雑誌乃至は商業雑誌とは異ったより自由で、且、気楽な物性物理研究者のための雑誌としての性格を一層持つことであろう。

若い、特に大学院クラスの研究者の投稿を特に期待している。

統計力学の国際会議と、秋の分科会と、基研15周年シンポジウムとにはさまれて、基研周辺の住人は、右往左往しているかんじである。「物性研究」の編集会議も、ここ2ヶ月程正常には開かれなかった。10月は「物性研究」の会計年度の切りかえ時でもあり、10月の編集会議は、いつか午後全部をつぶして十分な討議をしたいと計画中である。

秋の分科会は、10月4日～7日東工大で基礎論、磁性などが素粒子・原子核と同時に行われ、なかまる1週間おいて、13日～16日電通大で物性のその他の分科会が行われたが、何とも奇異な感がした。前半のプログラムと後半のプログラムの両方に興味をもっている人間の数は決して少くないはずである。プログラムを作成した組織委員の深遠なる意図ははかり知る由もないが、地方からの上京者は、分科会と分科会の間の1週間、ゆっくり東京見物でもして下さいということだろうか。それとも旅費を工面して、二度東京へ出かけて来いということだろうか。科研費も返上してしまった我々にとって、それが不可能なことは明白である。結局、涙をのんでどちらか一つを締めることになる。年2回の年会と分科会のどちらかひとつは東京であるのだし、そうでなくても東京在住者は、地方の人間より議論の機会や種々の研究会にめぐまれているのである。

だから、分科会でこの様な東京中心主義の無神経なプログラムの組み方をされたのでは、現在の日本のことに物性の分野での中央集権的傾向に一層拍車をかけ、学問自体のセクショナリズムをますます助長することになるのではないだろうか？「会場が獲得できなかった」などというのは、組織委員の怠慢であって、言い訳にはならない。

(米 沢)

物 性 研 究

第 卷 第 号

1968年11月20日発行

発行人 松 田 博 嗣

京都市左京区北白川

京都大学基礎物理学研究所

印刷所 昭和堂印刷所

京都市上京区上長者町通室町西入

TEL (441)1659 (431)4789

発行所 物性研究刊行会

京都市左京区岡崎徳成町11

有限会社 双 美 社 内

購読規定

個人購読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって
3月末までになるだけ(1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として、
100円お支払い下さい。

※ 1年間の会費

1st volume	960円
2nd volume	960円
計	1,920円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vol. 以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関購読

1. 会費：学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. 1,800円です
この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。

物 性 研 究 11—2 (11月号) 目 次

- ランダム系のクラスター展開 植山 宏... 72
- 相対論的統計熱力学 中嶋 貞雄... 79
- Magnetic な不純物がある超伝導体の order parameter の空間的变化
—— 多時間 Green 関数の方法 —— 北村 豊幸... 93
- s-d 相互作用について 大坂 之雄...108

解 説

- プラズマに於る負吸収現象 田中 茂利...131

掲 示 板

- プログレスの投稿者各位へのお願い プログレスより...156

公 募

- 東京大学教養学部物理教室助手157

- 九州大学理学部物理学教室助手157

- お知らせ158

ニ ュ ー ス

- 人のうごき159

ひ ろ ば

- プレプリント案内 161

- 編集後記 165

物 性 研 究 11—2 (11月号) 目 次

- ランダム系のクラスター展開 植山 宏... 72
- 相対論的統計熱力学 中嶋 貞雄... 79
- Magnetic な不純物がある超伝導体の order parameter の空間的变化
—— 多時間 Green 関数の方法 —— 北村 豊幸... 93
- s-d 相互作用について 大坂 之雄... 108

解 説

- プラズマに於る負吸収現象 田中 茂利... 131

掲 示 板

- プログレスの投稿者各位へのお願い プログレスより... 156

公 募

- 東京大学教養学部物理教室助手 157

- 九州大学理学部物理学教室助手 157

- お 知 ら せ 158

ニ ュ ー ス

- 人のうごき 159

ひ ろ ば

- プレプリント案内 161

- 編 集 後 記 165